

# INFORMATION NOW

インフォメーション・ナウ



購入した生ごみ処理機。これから大活躍してくれることでしょう。

台所から出る野菜くずや残飯などの生ごみは、燃やすごみの半分近くを占めています。もし、生ごみが資源として活用できたら、ごみの大幅な減量となるだけでなく、有機肥料として土に還元することによって、資源循環型のまちづくりを進めていくことができます。

新狭山ハイツ自治会（小菅 實会長）では、市の生ごみ拠点リサイクル事業のモデル地区として、電気式生ごみ処理機による生ごみの有機肥料化に取り組んでいます。現在参加

## 新狭山ハイツで生ごみ拠点リサイクルモデル事業を開始！

しているのは110世帯ですが、12月以降に説明会を毎月開催し、200世帯まで増やしていく予定です。今後は、年間約43t（120kg/日×365日）の生ごみの減量・資源化が見込まれています。今回はこの全国でも先進的な取り組みを紹介します。

### 11月15日から、生ごみ処理機が稼働しています。

団地内に建てられた2棟の小屋に生ごみ処理機がおりてあります。朝6時、「おはようございます。」小さなハケツを持って、生ごみを投入する人がやって来ました。週6日、6時から22時まで、自分の鍵で機械の投入口を開けて自由に生ごみを入れられます。1日60kg処理できる機械に入れられた生ごみは、加温と微生物により分解・発酵され、有機質肥料に生まれ変わります。毎週1回ボランティアにより取り出されて、ハイツ住民の家庭菜園や団地の緑化に使われます。将来的には近隣農家で堆肥化し、農地に還元してもらえよう、検討していく予定です。

機械選定から運営まで、すべて地域主体で進めてきました。

新狭山ハイツ自治会では、モデル地区として昨年の秋以来ハイツ内部や市との協議、住民説明会、機種選定会など、延べ30回以上の会合を重ねてきました。これらはすべて地域主体で取り組んできたものです。今後は、生ごみ処理量や有機肥料生産量、有機肥料の使用状況などの成果の把握に努めてもらうことになりま。これに対し、市では事業にかかる費用を助成します。

### 生ごみリサイクルだけでなく、事業の効果。

参加している住民からは、「生ごみを機械で処理するようになったので、もやすごみに出すのは紙やプラスチックの食品容器だけになりました。でも、紙類や食品トレーを分別して資源回収に出し、あまり包装していない品物を買おうと努めれば、もつとごみは減りますね。」とか「生ごみ処理機にはカビが生えたり、



腐ったものは入れられません。だから、食べ残しを冷蔵庫の奥で何日も置いたうえ、腐らせて捨ててしまつことがないよう、気をつけるようになりました。」という感想が聞えました。生ごみのリサイクルだけでなく、ごみ全般に気を配る波及効果が表れてきているようです。

### モデル事業の成果を「リサイクル都市・狭山」の施策に生かします。

市では、モデル地区の成果を基に、狭山市の生ごみ資源化の方向性を検討していきます。生ごみリサイクルによる資源循環型のまちづくりを目指してステップアップしたこの事業、今後の展開に注目してください。

問い合わせ「ご減量・資源リサイクル推進チーム」へ内線3631